USPTO、AI を活用した新たな商標審査支援ツールの導入を公表

2026 年 3 月 25 日
JETRO NY 知的財産部
蛭田、赤木

USPTO は、3 月 19 日付プレスリリース[1]で、AI を活用した新たな商標審査支援ツール「Class ACT（Trademark Classification Agentic Codification Tool）」を導入する予定であることを公表した。本ツールは、商標出願への国際分類や図形検索コードなどの付与を迅速化し、商標審査実務を効率化させるものである。

これまで、USPTO の商標審査官は、ロゴ、図形や造語などを含む商標出願や、国際分類が付与されていない商標出願に対して、新たに国際分類や図形検索コードを付与していた。商標出願件数の増加の影響もあり、国際分類などの付与に数カ月の期間を要することもあったとされている。

この AI ツールにより付与された国際分類などの情報は、全て商標審査官がレビューした上で利用することが前提とされる。スクワイヤーズ USPTO 長官は、本ツールの導入により、商標審査において最も負荷が大きく時間を要する国際分類などの付与を効率化させることで、商標審査官が実体審査や出願人とのコミュニケーションといった果たすべき本来の職責に注力できるようになると期待を寄せている。

なお、USPTO は、3 月 17 日、電子特許証（eGrant）の表紙について、米国建国 250 周年記念デザインとすることを公表[2]した。この建国 250 周年記念デザイン[3]は、米国におけるこれまでのイノベーションの歴史とともに、知的財産が創作活動や経済成長を支えるものであることを表すもので、USPTO 内で実施されたデザインコンテストの結果採用されたものである。また、電子商標登録証についても、これと併せて建国 250 周年を記念するデザインに変更される[4]。
建国 250 周年記念デザインは、2026 年 12 月 29 日までに発行される各登録証に施されることになる。

（以上）

---

[1] Trademark classification goes agentic with USPTO's announcement of "Class ACT" assistant (Mar.19, 2026)
[2] USPTO unveiling special Patent eGrant covers and Trademark registration certificates (Mar.17, 2026)
[3] https://www.uspto.gov/sites/default/files/documents/eGrant-example-2025.pdf
[4] USPTO unveils commemorative trademark registration certificate (Mar.24, 2026)